

富士山静岡空港の収支の概要

(文化・観光部空港振興局)

1 要 旨

富士山静岡空港は、道路や港湾と同様、県勢発展に不可欠な社会資本として整備したものであり、空港の利用が県民の利便性向上や経済活動に寄与できるよう利活用促進に努めている。

平成 22 年度から、空港収支に係る情報の透明性を確保する観点で、国に準じて公表している空港管理運営に係る収支について、平成 29 年度の収支状況を取りまとめたので報告する。

2 概 要

(1) 空港管理運営に係る収支

- ・平成 29 年度の富士山静岡空港の管理運営に係る収支は、着陸料をはじめとした収入額が 2 億 6 千 5 百万円となったのに対し、管理運営（人件費を含む。）に係る支出額は 8 億 7 百万円となり、収支差額 5 億 4 千 2 百万円は一般財源を投入している。
- ・平成 29 年度は、着陸料等の収入が増加したほか、航空灯火に係る予備発電設備の定期点検費用が減少したことなどにより支出額が減少したため、一般財源投入額は、平成 28 年度に比べて 5 千 6 百万円減少した。

(単位：百万円)

区 分	29 年度 a	28 年度 b	差引額(a-b)	増減率(%)
収 入	2 6 5	2 6 0	5	2
支 出	8 0 7	8 5 8	△ 5 1	△ 6
収 支	△ 5 4 2	△ 5 9 8	5 6	9

(2) その他の収支の試算

空港管理運営及び空港整備に係る企業会計の考え方を取り入れた収支、並びに公共施設等運営権制度導入に向けての指標となる EBITDA（県の企業会計の考え方を取り入れた収支と富士山静岡空港株式会社の収支の合算）の試算結果は、別紙のとおり。

(3) 今後の取組

県では、平成 31 年度から公共施設等運営権制度を活用した新たな運営体制に移行すべく取り組んでいる。県は、運営権者による空港活性化や利便性向上、空港の安定的な運営に向けた事業が着実に実行されるよう促していく。